

少雨に係る技術対策

平成17年6月23日
山口県農林部

共通事項

1 用水確保

- (1) 水利組合と連携して、適切な計画的配水を徹底
- (2) 地下水を利用できる場所は、ボーリングや井戸水を活用
- (3) 河川水の利用できる場所は、ポンプ台数や設置場所を検討
- (4) 排水の循環利用

2 干害後対策

水稲が枯死する可能性が大きい場合は、共済組合に連絡するとともに、代替作物を検討

各作目毎の対策

1 水稲

(1) 育苗

田植えが遅れて苗が老化した場合は、剪葉し、箱当たり窒素0.5g程度を追肥
著しく田植えが遅れる場合、晩植限界時期までに移植できる範囲で、早生品種を用いて播種（育苗）を実施。早生品種の場合、6月末までの播種は可能。また田植えの限界期は、平坦地では7月20日頃である。

(2) 本田管理

ア 移植

移植時期が著しく遅れた場合は、穂数確保のために栽植密度を確保

イ 漏水防止

畦畔、水路の点検を行い、漏水を防止する。暗渠を確実に閉じる。

畦畔のモグラ穴を補修

畦畔に周囲の青草を刈って敷くことも効果がある。

ウ 節水栽培

計画的配水を行う。

生育段階	必要度	用水が少ない場合	用水が極少の場合
活着期	最も必要	湛水	湿潤
分けつ期	必要	湿潤	断水
無効分けつ期	必要極少	断水	断水
幼穂形成期	最も必要	数回灌水	1～2回灌水

節水栽培では、少量の水で速やかにほ場全体に水が行き渡るように、ほ場周囲や中央に作溝を実施

最低必要量の走水

必要茎数を確保したほ場では断水可能だが、極端な亀裂を入れると漏水が激しくなるので、最低必要量の走水で対応

ほ場に著しい亀裂が発生した場合は、降雨や入水直後に軽く中耕し、亀裂を埋めるなどの対応で漏水を防止

エ 除草対策

ほ場乾燥で、初期～初中期剤による土壌処理効果が不十分なほ場では、雑草の発生状況と田植え後日数などの使用基準に留意し、中後期剤等で対応

2 大豆

(1) 播種

過乾燥で播種不能な場合は、降雨後に適湿となるまで待つて播種。その場合、栽植密度を高める。

(2) 除草剤散布

土壌処理剤は、乾燥状態の土壌ではその効果の発揮が困難になるので、多量の希釈水で薬液を調整し丁寧に散布

(3) 中耕

乾燥が著しい場合は、逆効果になるので控える。

雑草発生が多く、中耕を行わなければならない場合は、極浅く実施

3 野菜

(1) 播種、定植

発芽や活着時には水分要求量が特に高いので、用水の確保を見極めてから、実施する。

(2) 灌水方法

用水量が少ない場合は、夜間の灌水が有効である。

(3) マルチによる乾燥防止

敷き草、ワラ、マルチフィルム等によるマルチングを行う。

(4) 生理障害対策

果菜類等で石灰欠乏が見られる場合は、塩化カルシウムの葉面散布を行う。

4 果樹

(1) 必要灌水量

果樹園の蒸発散量は1日当たり3～5mm程度で、晴天が10日続けば1回に30mm程度の計画的な灌水が必要となることから、灌水施設(ボーリング、ポンプ、スプリンクラー等)の計画的な稼働に努める。

(2) 幼木や砂質土壌、南向き傾斜等、干害を受けやすいところでは灌水を開始する。

(3) 病虫害防除

高温乾燥時には、ハダニ類の発生が多くなるので早めに防除する。